

令和元年度
西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略
事業評価報告書

〔 評価対象：平成30年度 地方創生推進交付金事業 〕

令和 2 年 2 月
西郷村地方創生有識者会議

はじめに

1. 地方創生有識者会議について

本村では、国の「長期ビジョン」や「総合戦略」を踏まえ、人口減少の抑制と持続可能なまちづくりに向け、平成28年3月に「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

この総合戦略の策定においては、行政のみならず、住民、NPO、関係団体や民間事業者等の参加・協力が重要であることから、住民をはじめ、産業界・県や国などの関係行政機関・大学などの教育機関・金融機関・労働団体・新聞社などのメディア（産官学金労言）などで構成する組織でその方向性や具体案について審議・検討し、広く関係者の意見が反映されるよう「西郷村地方創生有識者会議」が設置されました。

また、計画策定後もその効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、外部有識者の参画を得ることが重要とされていることから、本会議において審議・検討するものとししました。

2. 西郷村地方創生有識者会議構成

分野	所属	役職	氏名	備考
産 業	西郷村商工会	会 長	仁平 喜代治	
	白河オリンパス(株)	総 務 部 長	鶴田 良二	
	信越半導体(株)	主 幹	桑名 義雄	
	東陽電気工事(株)	代表取締役社長	石川 格子	
	社会福祉法人 西郷村社会福祉協議会 みずほ保育園	園 長	渡辺 美音利	
	五峰荘	女 将	有賀 圭子	
官 界	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家	次 長	蓮見 直子	
大 学	福島大学	特 任 教 授	清水 修二	座 長
金 融 機 関	東邦銀行 新白河支店	支 店 長	佐藤 忠信	
	白河信用金庫 西郷支店	総 括 店 長	鏑 貴志	
労 働 団 体	日本労働組合総連合会 福島県連合会 白河地区連合会	議 長	畠山 史信	
言 論 機 関	福島民友新聞社 白河支社	支 社 長	渡 辺 司	
	福島民報社 白河支社	支 社 長	広瀬 昌和	
住 民 代 表	西郷村行政区長会	会 長	花安 紀夫	
	西郷アグリネットワーク	会 長	近藤 武男	
	西郷村婦人会	会 長	遠藤 玉美	
	西郷村社会教育委員	副 委 員 長	橋場 八代子	
	西郷村くらしの会	会 長	大越 則恵	

総 評

一昨・昨年度に続き、地方創生関連事業の評価を行った。評価対象は2つの国庫補助事業であり、またいずれも複数市町村の広域連携事業である。

まず「サイクルツーリズム推進事業」だが、有識者委員の評価は「C」に集中しつつ「A」と「D」の両極の評価もあった。効果がなかったとは言えないにしても大きな効果があったとまでは言えない、というのが多数意見だったといえる。同事業に対するこれまでの評価もおおむね同様であった。

やや消極的な評価が多いと同時に評価が分散するのは、サイクルツーリズム事業そのものの展開とその効果が確認しにくいような指標が立てられていることに原因があると考えられる。観光客入込数の増加にサイクルツーリズム事業が貢献しているかどうか判断のしようがないまま、とにかく数値が増加したという結果を「成果」とみる、といった方法でしか対処できないのが正直なところである。他方、宿泊者数が目標を大幅に下回っているという逆方向の事象を、サイクルツーリズム事業の不十分さに起因するとみなす根拠もない。評価を科学的に行おうとするなら、観光客数の増加と宿泊客数の伸び悩みとの関係を多角的に分析したうえで、サイクルツーリズム推進事業がその中でどういう位置にあるのかを検討する作業が本来は必要だろう。

次の「産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業」は、評価が「A」に集中しているので今回も高い評価を得たといえる。西郷村を初めとする当地域の産業振興は、現に数字で確認できる「結果」を出しているから、「一般社団法人産業サポート白河」の事業全体の評価としては妥当と思われ、関係者の努力を多としたい。ただしここでも、俎上にのっている個別の国庫補助事業の評価にこれになっているかといえば、そうは言えないだろう。ましてそこから「西郷村」の事業成果を切り出して評価することなどそもそも不可能である。

あえて「D」評価を下した委員があるのは、おそらくこういった点の「無理筋」を指摘したものと受け止めていただきたい。

住民生活の総合性を反映して地方行政も元来が総合的なもので、縦割りで降りてくる国の施策や財源を、地域でどう総合性を持たせながら地域づくりに生かすか、地方自治の手腕がそこで問われるわけである。個別の補助事業を、そこだけ切り離して評価することが困難なのは考えてみれば当然であり、自治体当局の力不足に責めを帰するのは必ずしも適当ではない。村当局においては、こうした事情を理解しつつ、なおかつ少しでも有効な行政評価の方法を模索していただいたい。

令和元年2月6日

西郷村地方創生有識者会議

座長	清水	修二
委員	仁平	喜代治
〃	鶴田	良二
〃	桑名	義雄
〃	石川	格子
〃	渡辺	美音利
〃	有賀	圭子
〃	蓮見	直子
〃	佐藤	忠信
〃	鏑	貴志
〃	畠山	史信
〃	渡辺	司
〃	広瀬	昌和
〃	花安	紀夫
〃	近藤	武男
〃	遠藤	玉美
〃	橋場	八代子
〃	大越	則恵

○会議の開催経過

日時・場所	内 容
令和元年 12 月 24 日 (火) 西郷村文化センター 第 1 研修室	西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について 地方創生関連事業の効果検証について (2 事業) I サイクルツーリズム推進事業～観光・健康・復興に輪行で行こう～Part2 II 産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業
令和元年 2 月 6 日 (木) 西郷村文化センター 第 1 研修室	西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業評価報告書について ・委員評価・意見取り纏め ・総評

○評価対象とした事業

評価対象とした事業は、下記の交付金を活用した事業に対して行いました。事業名等については、別表「地方創生関連事業一覧」のとおりです。

○評価の区分

評価は、次に示す 4 区分によるものとし、意見や提言等を付すものとししました。また、現時点でどうしても評価が難しいものは評価不能とししました。

A：地方創生に非常に効果的であった

指標が目標値を上回った場合など。

B：地方創生に相当程度効果があった

目標値を相当程度（7 割）達成した場合など。

C：地方創生に効果があった

目標値を上回らなかったが、本事業開始前よりも改善したなどの場合。

D：地方創生に対して効果がなかった

実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合。

○評価の手順

手順 1 事務局による事業概要の説明及び質疑応答

↓

手順 2 各委員の事業評価（各委員で評価）

↓

手順 3 各委員の評価発表及び評価の取りまとめ

地方創生関連事業一覧

番号	事業名	総合戦略における分類	交付金名称
1	サイクルツーリズム推進事業～観光・健康・復興に輪行で行こう～Part2	にしごうを‘愛し’生涯安心して幸せに暮らせる村をつくる	平成30年度 地方創生推進交付金事業
2	産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業	にしごうで‘働き’安心して生活できる村をつくる	平成30年度 地方創生推進交付金事業

I サイクルツーリズム推進事業～観光・健康・復興に輪行で行こう～Part2

1. 事業概要

白河市、那須町、西郷村の広域連携事業として、サイクリストのための環境整備と観光業を中心とする第三次産業の市場規模の拡大を図るため、国内・国外に向けて情報発信・プロモーション活動を実施しました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
観光客入込数	283,800 人増	357,310 人増	125%
白河駅（白河市）、新白河駅（西郷村）黒田原駅（那須町）乗降者数	100 人/日増	-7 人/日増	-7%
RESAS 外国人メッシュ分析のメッシュ数	3 箇所増	1 箇所増	-33%
RESAS 観光客マップ宿泊者数	70,900 人増	-259,471 人増	-349%

（KPI 設定理由）

- 観光客入込数について、観光客は飲食や土産・買物、入場料等の消費を地域内で行うため、地域にサイクリングの環境を整え、サイクリングを楽しめる環境を宣伝することにより、それを目的とした観光客の増を期待することから、事業の効果を計測するのに適していると考えられる。
- 駅乗降者数について、新幹線停車駅を含むJR駅があるという地域の強みを活かしているかを計測する有用な指標と考えられる。
- 外国人メッシュ分析のメッシュ数について、日本全体として増えている外国人観光客の経済効果を高めるためには、地域内を周遊いただくことが重要であり、外国人が地域内のどこを訪問(30分以上滞在)したのか視覚的にわかるRESASが適している。
- 観光客マップ宿泊者数について、「旅行・観光消費動向調査」によると旅行単価は日帰り旅行に対し、宿泊旅行のほうが倍以上高く、宿泊はそのものが大きな消費行為になっているため、その増加は地域内の所得向上に貢献する。特に宿泊は地域外からの消費が主となるため、別地域からどの程度稼ぐかを見るにあたって良い指標となる。

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
1	2	9	1	

4. 有識者からの意見

○観光客入込数が増えているので、効果を全否定するものではないが、サイクルツーリズム推進事業がどこにどれだけ貢献したか、データからは見て取れない。台湾トップセールスの報告の中でも、どのようにサイクルツーリズムを売り込んだのか触れられていない。

○一考を要する。

○限りなくDに近いC。宿泊者数など西郷村への恩恵があったか判断できない。PR効果があったかなかったか、評価できる指標、目標を再考する必要がある。

○広域連携事業として、ある程度の効果があったと思う。前回と同じで、村単独の評価目標が必要である。村行政の道の駅基本計画や拠点づくり計画による相乗効果が望まれる。

○入込数は伸びているものの、サイクルツーリズムとの因果関係がいまひとつ不透明。事業方針を基本的に見直すべきではないか。

○西郷村単体での収支や取組状況、効果などがわかると尚良いと思う。また、他団体でサイクリスト対象の取組やイベントも開催しているので意見交換をする場とアイデアを頂くのも良いと思います。

○台湾トップセールスと旅行業者への発信は効果が大きいと思われる。今後も継続して実施をして欲しい。②白河・新白河・黒田原駅乗降者数、③外国人メッシュ数、④観光宿泊者数は国内外の政治的経済環境にたたされ易い。目標達成の具体的方策が難しい。

○白河ではやっているが、西郷ではなぜやらないのか？等の意見がでたり、自転車利用者が多くなるにはどうするか？西郷村ではサイクリングは無理という声も出ていましたので、不安な気持ちでした。推進事業で実施内容をみてほっとした半面、おどろきました。昔、日本領となっていた台湾の業者に対してトップセールスを行ったとの内容報告を読み関係者皆様にお疲れ様の声を送ります。

○外部へのプロモーション活動と同時に、地元自転車専用スタンドを整備するなどの受け入れ態勢を整える必要があるのではないか。

○サイクルピットは増設しているが、利用者数がわからないので増設している効果が出ているかわからない。観光客入込数が増加しているが、宿泊者数が減少しているので分析が必要ではないか。

○台湾トップセールスによって得られた成果があれば、盛り込んでどうか。台湾の中・高校生の修学旅行等があれば、当初からもパッケージとして売り込みに行くことはできるかもしれない。3市町村が観光で連携して行くことは、これからも大変重要だと思う。実務、担当レベルの情報交換や、イベント企画会議などを実施してはどうか。

【今後の方向性】

本事業は、サイクルツーリズムの推進をとおして国内外に向けたプロモーション活動や環境整備を行ない、交流人口の増加や観光業を中心とする第3次産業の市場拡大を図ることを目的に、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうを愛し生涯安心して幸せに暮らせる村をつくる”に関連する事業として実施しました。

事業展開によって従来の県域ごとの事業展開からの脱却を試み、海外へのPR活動や環境整備を行ない、あらたに、サイクリストや観光客を呼び込む具体的な対策として、有名サイクリストやブロガーなどのインフルエンサーを招致し、白河、西郷、那須をつなぐサイクルコースの魅力について情報の発信を行いました。

近年では、インターネット環境やスマートフォンの普及により、多くの方がSNSなどを活用した情報発信が盛んに行われています。

サイクリストは自家用車やバス、タクシーなどを利用する観光者等と比較すると、自転車で比較的ゆっくりと村内を回遊することから、より穴場の情報の発信が行われるなど、通常の視点とは異なる西郷村をより多くの方に知ってもらうことができ、サイクリストを起点とした地方創生は一つの有効な手段と考えられます。

これまで台湾へのトップセールスの実施など、主にアジア圏へのプロモーション活動を実施しインバウンド推進を図ってきたが、モニターツアーや旅行プランの提案など、自転車を活用した具体的な観光誘客の取組みについてはまだまだ不足していることもあり、外国人観光客の増加に至らなかったと考えます。

交付金事業としては本年度を以て終了しますが、3市町村共同で推進協議会を立ち上げ、今後も引き続きサイクルツーリズム事業の推進を図っていきます。

Ⅱ 産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業

1. 事業概要

白河市、矢吹町、泉崎村、西郷村の広域連携事業で、一般社団法人産業サポート白河が行う新規事業促進支援や経営高度化支援などの事業に対して支援を行いました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
県南地域の製造品出荷額	137 億円増	561 億円増	409%
県南地域の就業者数	352 人増	1,064 人増	591%
海外企業との商談件数	2 件増	15 件増	750%

(KPI 設定理由)

- 地元企業の特徴を磨き育成することにより、企業規模の拡大を目標とすることから、事業効果として製造品出荷額が増加することが見込まれる。そのため、事業の費用対効果を複数年にわたって計測するのに適していると考えられる。
- 上記同様、地元企業の特徴を磨き育成することにより、企業規模の拡大を目標とすることから、事業効果として従業員数が増加することが見込まれる。そのため、事業の費用対効果を複数年を通じての評価指標としてふさわしいと考える。
- 企業の競争力強化を図るには、国内展開のみならず海外展開が必要不可欠であり、海外企業との接触が第一である。現在海外展開を行っていない企業への支援が中心となると考えられるため、海外企業との商談件数を段階的に増やすことが重要である。

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
8	3	1	1	

4. 有識者からの意見

- 再考すべきではないか。
- 目標値がほとんどの項目で達成できている。しかし、4市町村全体の値で、西郷村にとって効果的なのか判断できない。
- 目標を大きく上回る実績につながり、非常に効果的な取組であったと考える。
- 地域企業交流会、地元企業説明会等を開催することで、地域のニーズが高まった事で効果があった。
- 西郷村内の中小企業が自社製品を新たに考案したり、県外の催しに積極的に参加し販路開拓を進めるなど効果が出ている。継続し、規模の拡大も図ってほしい。
- 産業サポート白河の事業に参加している西郷村の企業にアンケートで、効果や実績、また課題などを聴けると良いと思う。
- 平成30年度は概ね良い数字が出ている。大規模見本市への出展および5S推進が主な交付金事業だということだが、報告書（社員総会資料）を見る限りそれなりの成果は挙げられていると思われる。
- 企業誘致が行われたり、経済情勢が良かった結果と思われる。業績が良いときは、産業サポートセンターの活用も多くなり、活性化につながると思う。いずれにしろ、実施されている各種事業は、労働者の技術力アップと、意識の高揚につながると思われる。海外企業との商談件数も必要と思われるが、国内企業にアピールが必要（台風19号郡山工業団地の影響を考慮）
- 市町村別の数字が知りたい。
- すぐに結果が出にくい面があるが、継続活動により結果が出てくると思います。継続活動をお願いします。
- 4市町村の連携事業ですので、大変な部分がやってくる場合もあるかもしれません。目標人数が増になるに伴って金額も増になる事は確実であるでしょう。その割合等は？難しいことははっきり言えませんが、促進支援事業は長期間を考えたときに不安がある。
- 福島未来を担う、小・中学生や高校生のキャリア教育にも注力していくことが望まれる。

【今後の方向性】

本事業は、一般社団法人産業サポート白河による課題解決型ハンズオン支援により、地域資源や地域産業（特に電気・電子関連・食品製造業等）の強みを活かした「ものづくりの高度化」や「海外展開」など、競争力強化に繋がる各種事業や実施体制整備のための支援を行ない県南地域産業の競争力強化を図るもので、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうで働き安心して生活できる村をつくる”に関連する事業として実施しました。

KPI については、3項目すべてで目標値を大きく上回っていますが、企業競争力に大きく影響することから、産業サポート白河に新たな専門の職員を配置し、地元企業の海外展開支援の強化を図るとともに、人材不足の解消に向けた外国人労働者の雇用ニーズの実態調査や地元企業との情報共有を図って参ります。

引き続き専従相談員による伴走型支援を拡充し、地元企業競争力の強化を図るため支援を行うとともに、新たな産業の育成に向けた起業・創業者支援のを強化、また、新たに海外へのマーケットを見据え JETRO などの関係機関と連携を図り、海外企業との商談会などへの出展を充実し取引拡大を図ります。